

公開・国際シンポジウム「死生と造形文化I」

聖遺物とイメージの 相関性 東西比較の試み

"Death and Life" and Visual Culture I
The Interrelationship of Relics and Images in Christian and Buddhist Culture

2007年12月16日(日)

会場: 東京大学本郷キャンパス 法文2号館 一番大教室

第1部 講演

13:00~

講演1

肥田路美「舍利信仰と王権」

講演2

エリック・トゥーノ「聖なる欠片からモノへ、
あるいはその逆: 初期中世の視覚文化における
聖遺物とイメージ」

14:40~

講演3

スコット・B・モントゴメリー「黄金の肉、輝く骨:
中世人の知覚における聖遺物と聖遺物容器の融合」

講演4

根立研介「日本の肖像彫刻と遺骨崇拜」

第2部 討議

16:10~

コメント

秋山聰「聖遺物とイメージ: 東西比較の試み」

ディスカッション

同時通訳付(先着順: 同時通訳機は台数に限りがあります)
With simultaneous interpretation (on a first-come-first-served basis)



主催/グローバルCOE「死生学の展開と組織化」 共催/東京大学大学院人文社会系研究科美術史学研究室
Organized by the Global COE Program *Development and Systematization of Death and Life Studies*
With Support from the Department of Art History, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo